

月刊 都響

March 2023



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2023
3/21

Promenade Concert

プロムナードコンサート No.401

会場：サントリーホール

指揮／大野和士

ピアノ／ジャン＝エフラム・バウゼ

♪バルトーク：舞踏組曲 Sz.77 (約 18 分)

♪バルトーク：ピアノ協奏曲第 1 番 Sz.83 (約 25 分)

♪ラヴェル：クーブランの墓 (約 18 分)

♪ドビュッシー：交響詩《海》- 3 つの交響的スケッチ (約 23 分)

東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

今日のコンサートは、オーケストラから光り輝くような響きを見事に引き出した、ハンガリーとフランスの作曲家による音楽をお届けします。いずれも20世紀に誕生した作品です。

バルトーク：舞踏組曲 Sz.77

東ヨーロッパのハンガリーを代表する作曲家の1人がベラ・バルトーク（1881～1945）です。バルトークは、音楽学校で学ぶような作曲のルールや伝統的な音楽の作り方にとどまらず、さまざまな地域の人々が暮らしの中で歌っている民謡を心から愛し、その要素を自分の音楽に取り入れました。

舞踏組曲は、ハンガリーの首都ブダペスト市が誕生して50年目（今からちょうど100年前の1923年です）の記念セレモニーのために作曲されました。バルトークはハンガリーやルーマニアやアラビアの民謡によく似たメロディやリズムを自分で考えて、生き生きとした6つの楽章からなる組曲に仕上げました。それぞれの楽章は切れ目なく演奏されます。第1、2、4楽章の終わりには「リトルネッロ」と呼ばれる穏やかな音楽が聞こえてきます。

バルトーク：ピアノ協奏曲第1番 Sz.83

バルトークの音楽には元気のいいリズムが印象的なものが多く、ピアノ協奏曲第1番もその一つです。ピアノは鍵盤の奥に付けられたハンマーが弦を「打って」音を鳴らす楽器ですが、そうしたピアノの打楽器的な仕組みをうまく捉えて、オーケストラのティンパニや小太鼓などと歯切れのいいアンサンブルを聞かせます。バルトーク自身も優れたピアニストで、この曲が1926年に初めて演奏されたとき、自ら独奏を務めました。同音連打が印象的な第1楽章、弦楽器は沈黙してピアノと管・打楽器のみで演奏される第2楽章、勢いに乗ってリズムカルに突き進む第3楽章で構成されています。



ラヴェル：クーブランの墓



今度は、バルトークと同時代にフランスで活躍した作曲家、モーリス・ラヴェル（1875～1937）の作品です。タイトルにある「クーブラン」とは、ラヴェルが生きた時代よりも200年ほど昔に、フランスで多くの音楽家を生んだクーブラン家のことです。ラヴェルは古き良き時代のフランスに思いを馳せながら、第一次世界大戦で命を失った友人たちへの追悼の気持ちを込めてこの曲を書きました。もともとはピアノ用に作った6曲からなる作品ですが、その中から4曲を選んでオーケストラ用に編曲しました。清らかな〈プレリュード〉、リズムカルな舞曲風の〈フォルレーヌ〉、素朴で香しい〈メヌエット〉、快活で華やかな〈リゴードン〉の4曲です。



ドビュッシー：交響詩《海》-3つの交響的スケッチ

クロード・ドビュッシー（1862～1918）は、ラヴェルより13歳年上のフランス人です。ドビュッシーは海が大好きでした。「もしも音楽家になっていなければ、私は船乗りになっていただろう」と語るほど、広大な海に憧れていたのです。交響詩《海》は、太陽にきらめき、風に波立つ海の様子が、オーケストラの響きによって鮮やかに描かれます。



第1楽章は「海の夜明けから真昼まで」。冒頭は夜明け前の薄暗い海のシーンです。オーケストラは静かに低い音から奏でます。やがて、コーラングレとトランペットが穏やかな海面のように滑らかなメロディーを奏で、弦楽器はさざ波のように揺れ動きます。楽章の終わりではトランペットが光り輝く太陽のように高らかに登場します。**第2楽章**「波の戯れ」は、タイトルの通り波が気ままに遊んでいるかのような音楽です。フルートとクラリネットがスペインの舞曲「ボレロ」のリズムを奏でる場面もあります。**第3楽章**は「風と海との対話」です。ティンパニと大太鼓、チェロとコントラバスによる、遠くの嵐のような不気味な響きでスタートします。やがて弦楽器の細やかな動きと、木管楽器による息の長いメロディーが、まるで風と海とのやりとりのように響きを交わします。

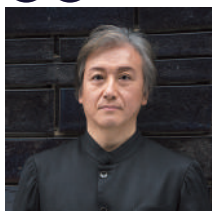


この作品の楽譜が最初に印刷された時、表紙にはなんと日本の浮世絵がデザインされていました。ドビュッシーは日本の文化にも関心があったのです。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

1905年に出版された『海』初版スコアの表紙

指揮 大野和士 Kazushi ONO



©Herbie Yamaguchi

都響およびブリュッセル・フィルハーモニックの音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督を務めている。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。これまでに、ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、モネ劇場（ベルギー王立歌劇場）音楽監督、フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督などを歴任。フランス批評家大賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受章、またリヨン市からリヨン市特別メダルを授与された。国内のオペラの分野での貢献も大きく、2022年には新国立劇場『ボリス・ゴドゥノフ』（都響がビットで演奏）を成功に導いた。

ピエール・ジャン＝エフラム・バヴゼ Jean-Efflam BAVOUZET

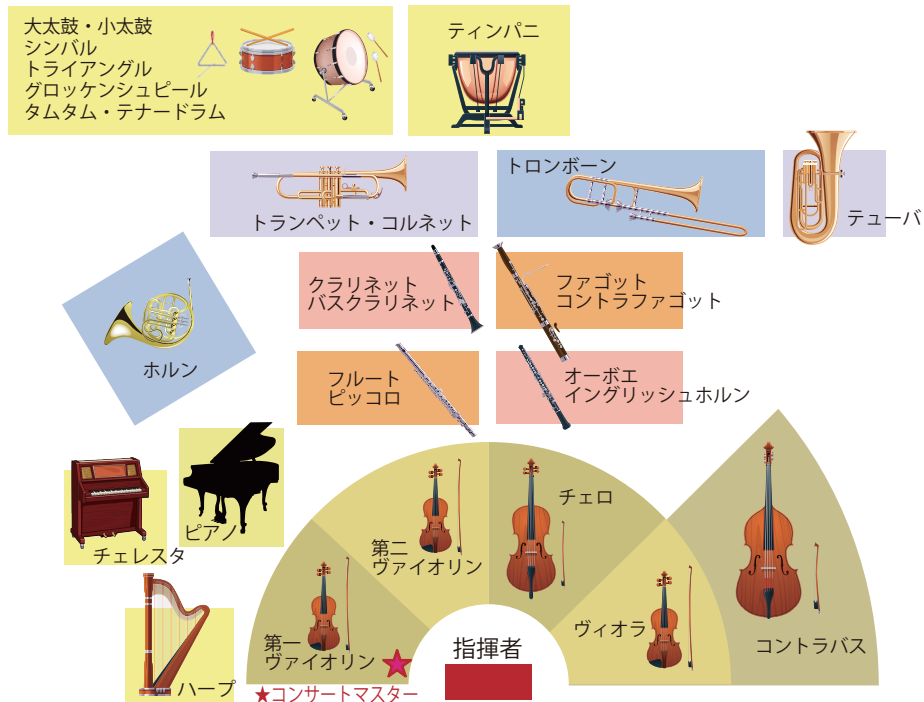


©B Ealovega

ピエール・サンカンに学ぶ。1995年にショルティ指揮パリ管弦楽団にデビュー、ショルティが最後に発掘した逸材との呼び声も高い。ロンドン交響楽団、フランス国立管弦楽団、ボストン交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックなどと、ゲルギエフ、アシュケナージ、サロネンらの指揮で共演を重ねている。リサイタル、室内楽もロンドン、パリ、アムステルダム、ブリュッセルなどで意欲的に行っている。英国チャンドス・レーベルと専属契約をしており、ドビュッシー、ラヴェル作品はもちろん、ベートーヴェン、ハイドンのソナタ集、モーツァルトの協奏曲集などの録音は数々の受賞を果たし、いずれも絶賛されている。

オーケストラ配置図（3月21日 プロムナードコンサートNo.401）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてください。



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO

東京都交響楽団



©Rikimaru Hotta

東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。
都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。